

京築元気もん

株式会社 和楽堂

「体に優しいお菓子」で和やかに楽しい時間を

「吉富町に名産品を作りたい」「老舗のお店がいくつもある中、小麦粉を使い新参者としてやっていくのは難しい」長らくそんな思いを抱えていた仲宗根社長。とある製粉会社との出会いがきっかけ、米粉だけを使用したグルテンフリーのお菓子づくりに着手しました。「和やかに楽しんでお菓子が食べられるような店舗にしたい」という思いを乗せ、2014年和洋菓子店「和楽堂」をオープン。今や町内だけでなく県全体へとその味は評判を呼び、福岡ブランドに認定されるほどになりました。なかでもおすすめのお菓子はダックワーズ。その名も仏語訛りのユニークな商品名「なんしょん?」。外はサクサク、中はモチリとした食感で、クリームはきなこ、抹茶の2種類です。

「グルテンフリーの和楽堂」として、全国的知名度を上げることが目標に、今もその挑戦は続いています。

(レポーター/パンダ)



話題のお店
Keichiku Gourmet

ピッツェリア ファイエロ
PIZZERIA FIERO



Shop Information

道の駅「しんよしとみ」構内に昨年オープン。上毛町の太陽をふんだんに浴びた野菜と本場のイタリア食材を使った、ナポリピッツァのお店です。ピッツァイオーロの吉武紀英さんは東京・横浜を中心に23年のキャリアがあり、銀座で一番人気のピッツェリアを立ち上げた職人さん。こだわりのピッツァ以外にもお肉料理やサラダ、ドルチェも豊富です。ランチやディナーにぜひお立ち寄りください。

・ピッツァ(1,000円〜) (レポーター/リトルミイ)
・ランチ(980円〜)
・コース(お二人で4,300円他、お問合せください)※要予約
テイクアウトOK!お電話でもご予約できます
※生地がなくなり次第終了する場合があります。

[住] 上毛町大ノ瀬304-1 (道の駅しんよしとみ構内)
[☎] 080-3982-7077 [休] 木
[営] 平日 ランチ 10:00~14:30
ディナー 17:00~21:00 (O-S 20:30)
[営] 土・日 10:00~21:00 (O-S 20:30)

今号は神楽特集! 「神楽の里・京築」の神楽の奉納は秋がピークです。これからさまざまな場所で、その魅力に触れることができます。私も先日初めて神楽を観賞して、そのダイナミックな立ち回りや荘厳な音に魅了されました。ぜひ皆さんも会報誌を片手に神楽観賞に出かけてみてはいかがでしょうか? (おでん)

京築応援団便り
豊のくにけいちく
「京築応援団」団員募集中!

京築を応援するファンクラブに入りませんか?
お申し込みは「京築まるごとナビ」から

発行: 京築連帯アメニティ都市圏推進会議 事務局 (福岡県広域地域振興課内)

企画編集: 京築応援団会報編集委員会、豊の国海幸山幸ネット

問い合わせ: 福岡県広域地域振興課 / 〒812-8577 福岡市博多区東公園7番7号

TEL. 092-643-3178 / FAX. 092-643-3164 E-mail: koiki@pref.fukuoka.lg.jp

豊の国
けいちく

行ってみちよくれ

EVENT CALENDAR



上毛町

竹灯籠祭り

9月30日(土)~10月1日(日)

■会場 大池公園(上毛町大字下唐原2335-1)
大池公園周辺を竹灯籠のゆらめきで色鮮やかに照らし出す。約1万本の竹灯籠が灯り、幻想的な空間を演出します。

●問い合わせ 上毛町企画情報課
☎0979-72-3111

苅田町

等覚寺棚田まつり

10月21日(土)~22日(日)

■メイン会場 等覚寺棚田周辺

■サブ会場 白山多賀神社

秋晴の心地良い季節、美しい空気と棚田があなたをお待ちしています。会場では各種イベントをはじめ、コンサートや神楽公演、花火の打ち上げを予定しています。

●問い合わせ 苅田町協働のまちづくり課
☎093-434-1809

築上町

第8回築上町「神楽・民俗芸能祭」

10月29日(日)

■会場 築上町コミュニティセンター(ソピア)
(築上町大字築城253番地1)

今回は、築上町の神楽全7団体や豊前市の三毛門子ども神楽、熊本県阿蘇市の中江岩戸神楽保存会が出演予定です。

●問い合わせ 築上町企画振興課
☎0930-56-0300

豊前市

第27回豊前市カラス天狗祭り

10月29日(日)

■会場 フレスポくぼてんタウン

豊前市を代表する秋のお祭り。地元の飲食店などが出展する美味しい出店の他、豊前神楽や豊前天狗太鼓ステージ、大抽選会などイベント盛りだくさんです。

●問い合わせ 豊前市観光物産課観光振興係
☎0979-82-1111(内線1174)

みやこ町

第12回みやこ町産業祭

よってこ犀祭inみやこ

11月18日(土)~19日(日)

■会場 犀川支所前広場(みやこ町犀川本庄646)
イベント会場では芸能発表や展示、ステージイベントなどを予定しています。農林産物品評会や出店もあります。

●問い合わせ みやこ町観光まちづくり課
☎0930-32-2512

行橋市

行橋はしご酒大会

11月21日(火)

■会場 行橋駅周辺

去年も大盛況だった行橋はしご酒大会が今年も開催されます。行橋で乾杯して、はしご酒を堪能してみませんか? 同日には、行橋駅にてイルミネーションの点灯式も開催予定です。

●問い合わせ 行橋商工会議所
☎0930-25-2121

豊のくにけいちく

Toyonokuni Keichiku. 2017 September

©IZUMI HARAGA

秋

vol.028

来てみちよくれ秋の京築
つながる神楽の里づくり



京築神楽の心

上毛町 唐原神楽講
唐原神楽
受け継がれる



▲宮本 雄一さん

豊前岩戸神楽の第一人者と言われる「佐知の佐助」こと広沢次郎より伝授された神楽社で、三十三神楽の奥義を極め、「渡」という芸名を授けられた広沢渡氏より明治30年代後半、継承し、現在に至っています。歴史に恥じないよう、舞の精神や技術の向上に努め、特に子どもたちは基本動作の繰り返し練習を徹底しています。お囃子に合わせて舞いはじめる子どもたちは大人顔負けの見事な舞を披露します。神社での奉納のほか、町内のイベントや老人ホーム、チャリティー公演など多方面で活動中です。神楽舞の役目は氏子様の願いや想いを神様に届けること。先代から受け継いできた神楽を継承していくことは使命であり、地域の平安や五穀豊穡を願う気持ちを大切に舞うことによって、皆様に喜んでいただけることが一番。笑顔あふれるひと時を届けられるようひたすら精進しています。

(レポーター/カジカガエル)



豊の国 京築かるた紀行 三毛門かぼちや（豊前市）

三毛門に日本最古のかぼちやあり

一四九二年、コロンブスがアメリカ大陸から持ち帰ったカボチャの種が、ヨーロッパやカンボジアなどで広まり、日本の渡来は天文年間、ポルトガル人により、豊後の国主、大友宗麟に献上したのが最初と言われています。主従関係にあった緒方鎮盛がカボチャの種を譲り受け三毛門村に広めました。水の少ないこの地域は、カボチャ栽培に適し「三毛門南瓜」と呼ばれ、大変甘く美味しいと評判になりました。江戸時代の大飢饉や第二次大戦の戦前戦後、食べ物が少なくて困った時、大切な食糧として人々の役に立ちました。また昭和三（一九二八）年、昭和天皇即位の際に大嘗祭の献上品に選ばれ、栄光をあげました。

平成一九（二〇〇七）年、三毛門南瓜保存会を結成。大嘗祭献采記念碑の立つ畑では、毎年、三毛門小学校の三年生が、保存会の指導を受けカボチャ栽培を行ったり、運動会や盆踊りなどで「三毛門南瓜音頭」に合わせて踊る様子がテレビ放映されるなど地域の人たちと一体となり、伝統文化を次世代に繋げ守り続けています。「三毛門南瓜の里」では、南瓜を使った焼酎・ワイン・ペーストなどの販売や、イベント時に「三毛門かぼちや団子汁」の販売を行っています。

JR三毛門駅前に大きなカボチャのモニュメントがあります。地域の食を支えた、生きた文化財「三毛門南瓜」は訪れた人を驚かせさせています。



●問い合わせ 三毛門南瓜の里 ☎090-8831-4115
[住] 〒828-0031 豊前市三毛門747-8



応援団ひろば しっちゃん けいちく神楽

世界初！英語訳つき 京築神楽紙芝居誕生！

「神楽を見るのは好きだが、意味がよくわからない」という人たちに、どうすれば、わかりやすく伝えることができるか？と考え、豊の国海幸山幸ネットが京築連帯アメニティ都市圏推進会議と共同で制作したのが、この神楽紙芝居です。神楽の見方を伝えるのは、京築神楽のキャラクターのミサキ君！神楽の舞台や衣装、手に持つ探り物の意味、演目の意味など、わかりやすく伝えていきます。絵と脚本は豊の国海幸山幸ネットの原賀いずみ・田中敦子、監修は福岡県豊前市神楽保存連合会事務局長の栗焼憲児さん。英語訳は豊前市のALT、ヘルマン・キャッシュ先生と北九州市在住で認定通訳ガイドの鬼塚ひとみさん。京築連帯アメニティ都市圏推進会議では、この紙芝居を京築地域の全小学校や図書館に配布。京築神楽の魅力を伝える観光ツールやインバウンド観光にも幅広く活用できる紙芝居です！

●問い合わせ/京築連帯アメニティ都市圏推進会議事務局
（福岡県企画・地域振興部広域地域振興課） ☎092-643-3178

受け継がれる 京築神楽の心



秋です！京築は神楽の季節！
平成28年3月に国指定重要無形民俗文化財となった「豊前神楽」。今年4月には新たに、京築地域の20の神楽団体も指定となり、ますます盛り上がっています。
地域とつながり、伝承を受け継ぐ京築神楽の心をお伝えします。

みやこ町 横瀬神楽講 よこせかぐら 横瀬神楽



▲篠田 和人さん

横瀬神楽は、大正14年に、上伊良原の神楽の名人、進三治氏に指導を受けた豊前岩戸神楽の一つ、赤幡流岩戸神楽です。第二次大戦後に一時中断しましたが、昭和46年に有志により復活。昭和50年、横瀬神楽保存会が発足し、現在の神楽講に至っています。舞い手も観客も楽しめる神楽を目指し、春の神幸祭（若宮八幡神社・木井神社）に舞を奉納しています。「今年4月に、国の重要無形民俗文化財の指定を受けたことを更なる励みに、精進します」と語る講長の篠田さんです。
（レポーター/とらバババ）

荏田町 南原神楽講 みなんぼるかぐら 南原神楽



▲羽廣 賢人さん

平成15年、40年ほど途絶えていた活動が復活。講長の羽廣さんは「基本に忠実であることを心がけ、後継者育成に力を入れて、地域を中心に積極的に活動している。地元神社での奉納や地域行事、福祉や公民館などコミュニティ施設などでの慰問や出張公演など地域に親しまれ愛されるよう努めている」と語ります。公演がすっかり恒例となっていて、演目や時間などリクエストに応じることも。「神楽を見て、楽しんで、地域の芸能文化を知って、一人でも多くの方が活動に参加してもらえたら…」ふるさとの思う講員みなさんの願いです。
（レポーター/木実原・ノウサギ）



豊前市 黒土神楽講 くろつちかぐら 黒土神楽



▲安枝 誠さん

黒土神楽は、明治9年に伝承され、8世紀初期以降の「岩戸神楽」の形態・演目が「式神楽」として大筋そのままの形で引き継がれています。子供神楽は、昭和58年に講員の子ども二人に教えたことをきっかけに平成8年に黒土子供神楽保存会として活動を開始しました。毎週の練習では、「礼儀」、「舞」の基本、「お離子」を指導。「大事なことは『真剣さ』と感謝の心」。子どもたちに教え、あらためて気づくことも多く、大人も勉強になる。「感謝の心」を忘れずに、舞の向上を目指し、これからも子供神楽の育成、黒土神楽の継承に励んでいきたい」と語る指導者の安枝さん。額の汗が輝きます。
（レポーター/ヒメジャガ）



築上町 赤幡神楽保存会 あかはたかぐら 赤幡神楽



▲田染 勇治さん

地元の元旦祭や神幸祭、秋祭（くんち）などで神楽の奉納を行い、お声がかかれ近隣の自治体などのイベントなどにも積極的に参加し、地域を盛り上げています。赤幡神楽は、鎌倉時代初期に旧築城郡16社家（神職）によって構成され、各神社や小笠原藩の氏神様である小倉八坂神社の祭礼での奉納など由緒と格式がある神楽です。田染会長のお話では、この伝統を守り継承するために、ビデオ画像に記録された舞の所作や形を普段の練習の合間にも観て学ぶなど、日々地道な努力を重ねているとのこと。天下泰平、家内安全、無病息災、五穀豊稔、人々の祈りが大切に受け継がれています。
（レポーター/うめいと）



京築神楽 豆知識

京築応援団 便り付録

イラスト・文・トヨビメ
監修 クリボウ

京築神楽 豆知識

京築神楽の定期公演で上演している紙芝居「しゅちよるのけいこく神楽」では、神楽を楽しく見るための豆知識を紹介しています。

今回は、神楽の演目に出てくる日本神話の世界について紹介しましょう。

神話と神楽

神話の世界には「古事記」「日本書紀」に記された神話を題材としたものがあります。前回、ご紹介した「岩戸開き」の演目は、スサノウのいたずらにおこったアマテラスが岩戸に隠れ、その岩戸を開くために個性豊かな神々たちが活躍する物語でした。しかし、「岩戸開き」には、問題児のスサノウは登場しません。天上から地上に追われたスサノウは、その後どうしたのでしょうか？「大蛇退治」の演目は、その後のスサノウの物語です。



神話の世界 その二 大蛇退治

アマテラスの怒りを買って高天原を追放されたスサノウは、髪と手足の爪を切られ出雲国の肥河に降り立ちます。すると美しい娘を間にテナツチとアシナツチという老夫婦が泣いています。娘はクシナダヒメといい、八人いた娘のうち最後の一人とのこと。その訳を訊くと、八つの頭と八つの尾を持った大蛇がやってきて毎年一人ずつ娘が食べられ、今日にもその大蛇がやってくるというのです。

不憫に思ったスサノウはクシナダヒメを守ることにし、ヒメを櫛にかえ、老夫婦に強い酒を造るよう命じます。しばらくすると世にも恐ろしい大蛇が現れ、娘を探します。ところが酒を見つけた大蛇はおいしそうにその酒を飲み干し、酔っ払って寝てしまいます。スサノウはこの機を逃さず大蛇に切りかかり見事に退治をし、そのとき尾を切り裂いて出てきたのが草薙剣といわれます。草薙剣をアマテラスに渡したスサノウは、これまでの罪がゆるされ、スサノウとクシナダヒメは結婚して出雲の国、須賀の宮で仲睦まじく暮らします。

出雲で生きて行くスサノウの思いがこめられた歌が、「八雲立つ 出雲八重垣 妻ごみに 八重垣作る その八重垣を」です。そしてこのスサノウがつくった国こそ、後にオオクニヌシが治める葦原中国となるのです。



大蛇のみどころ

さて、実際の神楽の演目では、強い酒を運ぶために樽かきという道化者が登場したり、大蛇を表現するものとして薬で作った蛇や張子の頭に蛇腹胴の派手な大蛇の作り物などが出てきます。また、京築の神楽では、神話には登場しない八重垣命や、大蛇の化身としてミサキ鬼なども見られます。

このように出雲神話のストーリーを思い浮かべつつ、その地域独自の工夫も理解することで、より楽しく神楽を見ることができるようでしょう。



◎スサノウノミコト

アマテラスの弟。アマテラスを怒らせて天上の国から追放され、出雲へ。そこで、テナツチとアシナツチの夫婦に出会い、大蛇と戦うことになります。

◎クシナダヒメ

テナツチ・アシナツチの八番目の娘で、漢字にすると、奇稻田姫(日本書紀)で田んぼを表します。大蛇に差し出されそうになるところをスサノウに助けられ、スサノウの妻になります。

◎テナツチとアシナツチ

山の神オオヤマツミの子で、出雲に暮らす夫婦神、娘はクシナダヒメ。スサノウに大蛇退治を願い出ます。

◎大蛇

チはヘビ。古来からヘビは人々にとって恐るべきものであり、暴れる斐伊川をあらわしているともいわれています。

治水の神 スサノウと 暴れ川の大蛇 斐伊川

ヤマタノオロチの舞台は、鳥取県東部、船通山から流れでて、出雲平野を貫き宍道湖から日本海へ注ぐ、全長一五三キロメートルの斐伊川といわれています。斐伊川は天井川で、上流部は砂鉄が取れる「たたら製鉄」の盛んな土地。古来から鉄をとるために山を切り崩し、川は氾濫をくりかえしていたようです。

川のいくつもの支流は大蛇の首。切られたヤマタノオロチの尾からツルギがでてくるのも不思議ではありません。

また、クシナダヒメは、斐伊川の洪水の危機にさらされる稲田。スサノウは、ヒメを助けるために、大蛇の首に垣をめぐらし、八つの門に、酒をいれた八つのタルを運び、大蛇を酔わせます。垣は堤防、門は堰、タルはため池。見事大蛇を退治したスサノウこそは、治水の神でもあるのです。

大蛇退治は洪水と戦い、土地を守ってきた人々の願いがこめられた演目でもあるのです。

